

ハザード評価の要求レベルと解像度に関する考察 Discussion on the social demand level of hazard estimation

鈴木 康弘^{1*}
SUZUKI, Yasuhiro^{1*}

¹ 名古屋大学
¹ Nagoya University

東日本大震災は、意識的に想定から外された巨大地震により生じた国難である。こうした問題を繰り返さないためには何が必要かについて、ハザード予測に携わる視点から考えてみたい。従来の災害予測は真理の解明を目指す理学的研究の結果であり、社会はこれに対応することが迫られた。予測情報により社会の災害対応力がある程度向上したことは事実であるが、予測結果が大規模かつ深刻になると、経済的・社会的理由で対応が困難であるとして受容されないこともあった。こうした問題は、災害予測に関する社会的要求水準と責任を明確にしてこなかったことに原因があると思われる。

今回の震災以降、「既往最大」よりも、「理論上起こり得る最大規模」の災害を予測することが重要であるとされた。これはひとつの要求水準の明確化である。一方で「既往最大」でさえ十分考慮されてこなかったことも東日本大震災の反省でもある。要求水準を自ら明確化することで社会の側は受け身でなくなり、予測する側には責任上、確度に関する客観的説明が必須となる。こうした議論を通じて、真に災害に強い社会が形成されるきっかけになる。ハザード評価に関わる研究分野・関係学会においては、要求水準に応じたハザード評価や精度検証の方法論を詰める必要がある。

キーワード: ハザード評価, ハザードマップ, 社会的要求水準
Keywords: hazard estimation, hazard map, social demand level